



2022 秋 & 冬 合併号

vol 13&14

from

SAGA

SUISA ニュースレターチーム
& 佐賀大学国際交流推進センター



佐賀大学国際交流推進センター

+81-952-28-8169



ryugaku@mail.admin.saga-u.ac.jp



<https://www.irdc.saga-u.ac.jp>





Hi! from SAGA

Autumn 2022 vol 13

SUISA ニュースレターチーム
& 佐賀大学国際交流推進センター



佐賀国際ナショナルバルーンフェスタ 2022

佐賀の最も有名なイベントの一つである「佐賀国際ナショナルバルーンフェスタ」が3年ぶりに我々のもとに戻ってきました！



SPIRA 国際フェスタ 2022

佐賀県国際交流協会（SPIRA）が武雄市で国際フェスタ 2022 を開催し佐賀大学の留学生も参加しました！



留学生のための「セカンドハウス」

住居は人々にとってとても重要なものです。佐賀大学では留学生向けに寮を提供しています。



佐賀「インターナショナルバルーンフェスタ」2022

今年のバルーンフェスタで目を引いたのは、河川敷に書かれた「3年ぶりの空で会いましょう」という文字でした。この佐賀の有名なイベントが開催されないまま、3年が経っていたことに気づかされました。この3年間に佐賀に来た方は、初めてこのイベントを見ることになったかもしれません。そこで今回は、2022年11月3日から6日にかけて開催された佐賀県の「インターナショナルバルーンフェスタ」をご紹介します。例年のように海外からの出場者はいなかったとはいえ、50機以上の国内から参加したバルーンが上空を舞いました。バルーンには様々な競技種目がありますが、私が見た競技のルールはいたってシンプルでした。競技者は、気球で空中に浮上し、地上にセットされたターゲットにマーカーを落とします。ターゲットは大きな円形で、その円形にマーカーを落とすか、限りなく近づけなければなりません。ルールは簡単ですが、バルーンはその時々風の向きによってコントロールされ、他の乗り物のように、ハンドルで操作ができるわけではないため、実際にやってみるのは簡単なことではありません。もし気球の運転を体験したい方は、佐賀バルーンミュージアムで気球運転シミュレーションを体験してみてください。



バルーンの種類はかっこいいものからかわいいものまで揃っています。佐賀銀行の「トムとジェリー」、ホンダの「アシモ」、台湾のツキノワグマ、タコとヤクルトのキャラクターなど、かわいいバルーンがたくさん展示されていました。私のお気に入りにはクジラ型のバルーンで、下に潜り込んでお腹を触ることができるバルーンです。

観客がお腹を空かせた時にはいつでも、佐賀牛の串焼き、たこ焼き、ロングフライドポテト、カステラ、佐世保バーガーなど、美味しい食べ物の屋台がありました。また、「うまかもん市」と呼ばれる佐賀の味覚を集めたテントもあり、佐賀牛や佐賀の海苔など、佐賀の特産物パッケージや生鮮食品が並んでいて、昼食やお土産に購入することができました。

11月5日、6日の夜には、嘉瀬川沿いにバルーンが広がり、音楽のリズムに合わせてバーナーを灯す「La Montgolfier Nocturne (夜間係留)」という美しいショーが行われました。闇夜に浮かぶ気球は、まるで祭りの喜びを踊っているかのようで、とても印象的なクロージングの瞬間でした。

読者の皆さんはいかがでしたか？参加され、楽しめましたか？

あなたの佐賀ライフの楽しい瞬間の1ページになれば幸いです。

SPIRA 国際フェスタ 2022

佐賀県国際交流協会（SPIRA）は、世界各国との国際交流、県民の国際理解の促進、地域の特性を生かした佐賀県の国際化の推進、県民や地域の国際交流団体と連携した県民主体の国際交流の展開により、世界に開かれた佐賀づくりに寄与することを目的としています。



SPIRAの大きなイベントのひとつに「国際フェスタ」があります。佐賀国際フェスタは、地元に住む日本人と外国人と一緒にイベントに参加することで関係づくりを目指します。毎年違う市町村で開催されており、今年は10月30日にメインイベントが武雄市のまちなか広場と中央公園で開催されました。



「SPIRA 国際フェスタ 2022 in 武雄」は素晴らしいイベントでした。40のブース（食べ物、お店、広報、体験、相談）があり、約1800人の来場者がありました。また、佐賀大学留学生もSPIRAブースの応援に駆けつけてくれました。中にはハロウィンの仮装をして、キャンディーやチョコレートを持って会場内を歩いている子もいました。また、スタッフとして来場し、会場で記念撮影をする姿も見られました。佐賀大学のインドネシア人学生による素晴らしいダンスパフォーマンスも披露され、会場に足を運んだ多くの人が大喜びしていました。インドネシアの学生によるダンスは、毎年大人気です。



最後に、SPIRAから読者にメッセージをいただきました。「毎年10月に国際交流会館が国際交流フェスタを開催しています。留学生を歓迎します。ぜひ参加してください。ボランティアとしてお手伝いいただける方は、SPIRA (<https://www.spira.or.jp>)までご連絡ください。一緒にフェスタを盛り上げましょう。」

留学生の「第二のホーム」

ホームとは、愛と温もりと安心を感じられる場所であり、本来の自分を発揮できる環境であり、人生で辛いことがあったときに頼るべき背中のようなものです。そして、私たちが留学生活の中で必要なものです。どこにも居場所がないように思っても、コミュニティのサポートや仲間意識によって、居場所を見つけることができます。佐賀大学では、国際交流会館が世界各国からの留学生を歓迎し、家庭的な雰囲気を提供しています。

佐賀大学では、3種類の学生寮を用意しています。A棟は1人部屋、B棟はカップル向け、C棟はファミリー向けとなっています。国際交流会館は、平均して150名の学生を受け入れることができます。



国際交流会館の入居者は、各学期開始時にオリエンテーションに参加します。このオリエンテーションでは、寮のチューターが寮のルールと規則について概要を説明します。ゴミの捨て方、勉強の時間帯、静かな環境づくりなど、寮のルールや注意事項が網羅されています。実際の生活をより知るために、夫婦用B棟の寮に住んでいる学生にインタビューを行いました。以下は、その回答のまとめです。

Erjon Krasniqiさんは、コソボ出身の学生です。現在、佐賀大学理工学部の修士課程に在籍しています。彼は、B棟に住んでいます。

質問：「国際交流会館の規則についてどう感じていますか？」

回答：「最初は、ゴミの正しい捨て方に関わりストレスを感じました。燃えるゴミ、燃えないゴミ、びん、缶などに分けて捨てなければならぬのです。でも、今では慣れて、リサイクルの簡単さと環境の大切さを実感しています。」



質問：「ここに住んでいるメリットは何ですか？」

回答：「生活費が比較的安く、大学から近いことです。」

質問：「何か困ったことがあったら、どのように解決しますか？」

回答：「日常生活で困ったことがあれば、ホールチューターに相談できるので安心です。また、同じ学生として、事務処理など言語に関することもサポートしてくれます。本当に助かっています。」



友人たちが自宅に集まり、クリスマス祝っている様子。

ベナン出身の Mathiro Jose Sindete さんは、現在佐賀大学で博士課程に在籍し、工学を学んでいます。家族と一緒に国際交流会館 C 棟に住んでいます。

質問：国際交流会館に家族で住むメリットは何ですか？

回答：広くて部屋数も多いので、お子さんがいる家庭には最適です。また、ファミリーハウスであるため、子供が友達を作りやすく、特に最近日本に引っ越してきて、まだ新しい国に慣れていない人には有益だと思います。また、大学のキャンパス内にあるため、友人と一緒に遊びに行くのにも便利です。



編集

ブラーパー ピームマバット、工学系研究科博士課程 3 年

ミヤツト ユーサン、先進健康科学専攻博士課程 1 年

國弘 貴之、教育学部 小中連携教育 中等主免教育 英語専攻 4 年

ジェフリ テウリ アーディアンサ、理工学研究科博士課程 2 年



Hi! from SAGA

Winter 2022 vol 14

Provided by
SUISA Newsletter Team
& Center for Promotion of International Exchange, Saga University



カルチュラルナイト

佐賀大学は、2023年1月18日に各国の文化理解・体験を深める「カルチュラルナイト 2022」を開催しました！



カルチュラルナイト

世界がますますグローバル化する中、私たちのコミュニティを構成する文化や伝統の多様性を祝福し、受け入れることが重要です。大学はこの取り組みの最前線に立ち、世界中から集まった学生のユニークな伝統や風習を紹介する「カルチュラルナイト」などのイベントを開催しています。このイベントは学生にとっては、自分の文化遺産を仲間と共有する機会であり、より広い大学コミュニティにとっては、異文化について学び、感謝する機会でもあります。



佐賀大学では、前年12月の大雪による延期を経て、2023年1月18日に待望の「カルチュラルナイト2022」を開催しました。今年のカルチュラルナイトというには、アンゴラ、バングラデシュ、ベナン、中国、カンボジア、カメルーン、フランス、インドネシア、韓国、ミャンマー、スリランカ、コソボ、チュニジア、ベトナム、リトアニア、モザンビーク、タイ、マレーシア、台湾、ネパール、ジンバブエなど様々な国からの留学生がより多く集まりました。



カルチュラルナイトでは、学生が各国を代表してブースを設け、自国の文化に関する情報、伝統的な衣類、食べ物、工芸品などを展示しました。また、音楽パフォーマンス、ダンスパフォーマンス、その他の文化的なアクティビティも行われました。



中国からの留学生はダンスパフォーマンスを披露し、その美しさとエレガンスで観客を魅了しました。ダンサーたちは、その卓越した才能と技術を披露し、中国舞踊の豊かな文化とユニークな芸術性を現代のメロディーと融合させ、生き生きと表現していました。私たちにとってこのパフォーマンスはダンスの美しさと優雅さをより深く理解するとても素晴らしいパフォーマンスとなりました。



日本からは、佐賀大学を代表するサークル「嵐舞」がパフォーマンスしました。「よさこい」と呼ばれる踊りを披露し観客を魅了しました。よさこいは日本が発祥の踊りで、全国のお祭りやイベントで観客を魅了する特徴的なスタイルのダンスです。エネルギッシュな動きと、日本の伝統的なダンスと現代音楽の融合により、よさこいは日本の文化として愛されています。



そして、ベトナムは私たちに歌を披露してくれました。歌の意味は、「異国の地でより良い未来のために努力する一方で、愛する祖国ベトナムを忘れてはならない」というものです。この歌は、ベトナムの美しい風景や豊かな文化遺産の映像とともに、心からの感情とともに披露されました。このパフォーマンスを通して、私たちは自分のルーツとなる文化的なものを大切にすることの重要性を再認識しました。



次に登場したのは、インドネシアの留学生たちから成るダンスパフォーマンスです。ダンスと鳥の鳴き声を組み合わせた独特のスタイルを披露しました。彼らのパフォーマンスは、古くから伝わる鳥の狩猟をモチーフにしており、ダンサーは狩猟者と鳥の動きを模倣しています。鳥の鳴き声と動きがシンクロし、魅惑的で楽しいパフォーマンスとなりました。



次に登場したのは、スリランカからやってきた優雅なダンサーたち。彼らは精緻なダンスを通じて、祖国の自然の美しさと豊かな文化遺産の一端を私たちに伝えてくれました。彼らのパフォーマンスは、視覚的に美しいだけでなく、観客に喜びと興奮をもたらし、すべての人が本当に楽しい経験をすることができました。



このイベントでは、世界各国から集まった魅力的な音楽パフォーマンスもいくつか披露されました。特にバングラデシュのシンガーによるパフォーマンスは、パワフルで魅惑的なボーカルで、観客を感嘆の渦に巻き込みました。



また、ナイジェリアの学生は、音楽とダンスを組み合わせたダイナミックで魅力的なパフォーマンスを披露し、私たちを元気づけ、楽しませてくれました。



最後は、ベナンの留学生が美しいダンスパフォーマンスを披露してくるだけでなく、観客も一緒になって踊ることができる伝統的なダンスを教えてくれ、一体となり楽しむことができました。この体験は、世界の文化の喜びと多様性を祝う、心温まる忘れられないものとなりました。



カルチュラルナイトは、学生、教職員など多くの人に文化的認識、理解、感謝を促す重要なイベントです。異なる背景を持つ学生が集まり、それぞれの違いや共通点を祝うことができる、包括的な環境を作ることができるのです。また、このようなイベントは、固定観念をなくし、異文化理解を促進するのに役立ちます。キャンパスにおける多様性と包摂を促進する強力な方法となり得るのです。



ステージでのファッションショーやパフォーマンスと同様に、ブースも興味深いものでした。カルチュラルナイトのブースは、来場者が世界のさまざまな文化に触れ、学ぶことができる素晴らしい機会を提供してくれました。楽器や伝統衣装、言語や芸術など、それぞれのブースでユニークなものが提供されていました。



インドネシアのブースでは、様々な音のコラボレーションでメロディーを作る「アングルン」を展示しました。また、チュニジアのブースでは、筆と墨を使ってアラビア語で自分の名前を書くという、美しくユニークな書き方を体験することができました。



ミャンマーのブースでは、「タナカ」と呼ばれる樹皮をすりつぶして作る伝統的なクリームを展示し、美しいデザインで顔に塗ったり、日焼けを防いだりするのに使われました。タイのブースでは、日本の工芸品である水引にタイらしさを加え、3色の紙紐を用意し、装飾していました。



ベトナムのブースでは、子どもたちが大人から米粉のおもちゃをもらう「Tết Trung Thu」というお祭りを紹介しました。中国ブースでは、感情によって異なる意味を持つジン・マスクの絵付け体験が行われました。バングラデシュのブースでは、結婚式で使われるヘナタトゥーを体験できるコーナーが人気でした。



ナイジェリアブースでは、地理や人口、伝統衣装などナイジェリア全般について、フランスブースでは、言語、著名人、スポーツ、食べ物、芸術などフランスに関する情報を紹介しました。カンボジアのブースでは、クラマと呼ばれる様々な用途に使える伝統的な衣服が紹介されました。



また、台湾のブースでは、台湾の発音記号を学ぶことができました。今回の文化祭は、世界各国の文化に触れ、学ぶことができたようです。

カルチュラルナイトギャラリー：



編集

ブラーパーピームマパット（工学系研究科博士課程2年）
ミヤットユースン（大学院連合農学研究科博士課程1年）
國弘貴之（教育学部小中連携教育中等主免教育英語専攻4年）
ジェフリテウリアーディアンサ（理工学研究科博士課程2年）

